

2013年
7月号

学校だより

筑波大学附属大塚特別支援学校
2013年7月2日発行

支援部の窓から見えるもの

支援部長 安部博志

「授業中なのに勝手に教室から飛び出してしまうのです」「授業中なのに大声を出して授業の邪魔をします」ある教師は、熱心に私に訴えた。

『ところで、子どもが困っていることは何ですか？』と、私が質問すると、きょとんとした顔をしている。困っているのは教師自身であり、子どもが困っていることに思いを馳せることができないのである。

授業中に教室から飛び出すには、子どもなりの理由がある。つまり、授業がつまらない。教師の話がさっぱり分からない。見通しがもてなくて不安…などである。

子どもの抱えているこうした困難に気づくことができれば、もっと分かりやすく魅力的な授業を工夫するだろう。悪いのは子どもじゃないと気づくことができればの話であるが……。

いわゆる“問題行動”といわれる行動ですら、それは大人の教師の都合にとっての「問題」であって、子どもにとってはコミュニケーション行動に過ぎない。「わからないよ！」「つまらないよ！」「もっと僕に分かるように教えてよ！」こうした子どもたちの『声にならない言葉』をキャッチできるセンスが教師には求められる。

『困った子』ではなく『困っている子』であるという認識に、まず教師自身が立つところからよりよい支援はスタートする。しかし、実際には、これがなかなか難しい。支援部の仕事で、一番苦労している点である。

法律が改正されて、特別支援学校が地域のセンター的機能を担うようになって6年目である。全国の特別支援学校には、地域支援部が設けられ地域の保育所、幼稚園、小中学校等を支援するようになった。大塚特別支援学校の支援部でも、この10年間で1100人余りの子どもを支援してきた。また、障害のある子どもの理解と支援方法について、年間90回以上の教員研修に携わっている。

読み書き計算の知識やスキルは、人生をより豊かに生きていくための手段であって目的ではない。ところが、手段を目的と取り違えている人は多い。悲劇である。この悲劇は、障害のある子どもの近辺で起きることが多い。療育における訓練一辺倒主義はその典型である。次から次へと訓練課題が与えられる中で、子どもや保護者は果して幸せになれたのであろうか……？

これまでの障害観は「医学モデル」であった。障害は治すもの、改善するもの、訓練するものという発想である。ところが、これではうまくいかなかった。そこで、近年「社会モデル」が提唱されるようになってきた。障害とは環境との相互作用で生じるものであるという発想である。障害は克服するものではなく、それと折り合いながら社会環境の側を整えましょうという考え方である。たとえ障害があろうとも、人生を前向きに幸せに生きていけるように子どもや保護者を導きましょうという新しい障害観である。

ところで、「幸せ」とは価値観であり、人それぞれに異なる。私だったら、次のように考える。意欲がある。人の中で安心して居られる。趣味や生き甲斐をもっている。自分が好き（できれば他者も好き）。自己選択や自己決定ができる。人と折り合いをつけることができる。困った時に周囲に援助を依頼できる。不安や怒り・ストレスをコントロールすることができる。自身の思い込みに気づくことができる。自他にドンマイと言える。人の役に立っている自分を実感できる。生きることが素敵だと思える……。

子どもを成功体験に導き自尊感情を高めることが、幸せに生きる力の土台となる。この考えは、長らく障害児教育の根底にあったが、これからは通常教育にこそ必要な考え方である。障害児教育も通常教育も、いよいよボーダレスの時代になってきた。これからは、障害児教育（2.2%）の知見を通常教育（97.8%）へ向けて発信する時代である。本校が取り組んでいるお茶の水女子大学附属幼稚園、竹早小や附属小中高、坂戸高校等との交流及び共同学習には、こうした背景があるのである。

国際教育拠点として

—今年のテーマはアフリカ！—
そして ICT を使っての交流



これまでも国際理解を進めるために、海外の文化に親しむ取り組みを続けてきました。昨年はポリビアの研修生受け入れを通して、南米のダンスや音楽と一緒に楽しむという経験をしました。

今年は、「アフリカイヤー」とのこと。12月にはアフリカからの研修生がいらっしゃる予定です。大塚では早くも合同朝会でアフリカのダンスの練習を始めました。2学期にはアフリカの打楽器奏者を招いて、ワークショップを行う予定です。

平成22年から続いている韓国大邱大学保明学校との国際交流においては、今年はインターネットを利用して生徒同士の交流を予定しています。7月に担当者が訪韓して打ち合わせをしてきます。



合同朝会に
アフリカの方？
ダンスと音楽で
盛り上がる！

今月のよてい

- 1日(月) 開校記念日
- 2日(火) 学校説明会(幼小学部)
- 3日(水) ミニ避難訓練
現場実習報告会
学大附属竹早小と交流(小)
- 4日(木) 学校説明会(中高等部)
- 5日(金) 授業研究会(幼・高等部)
- 6日(土) 公開講座音楽 小学部登校
- 10日(水) 教育実習オリエンテーション
- 12日(金) 給食終了
- 16日(月) 大掃除 短縮日課
- 19日(金) 終業式
- 22日(月) 夏季休業
公開講座音楽 小学部登校
- 26日(金)～27日(土) 公開研修会(幼)
26日午前幼児登校
- 30日(火)～31日(水)
公開講座教材

ありがとうございました！

<異動のお知らせ>

よろしくお願いいたします。

Q&Aコーナー



Q: 附属学校教育局とは、なんですか？

A: 筑波大学には、11の附属学校があります。附属学校教育局は、「幼児・児童又は生徒の教育並びに保育に関する実際的研究を行うとともに、学長の監督の下に、附属学校(11校)の運営に関する校務について統括及び調整を行う。」という目的で設置されています。

公立の学校でいえば、「教育委員会」のような役割を担う機関です。

Q: センター(特別支援教育研究センター)とは、なんですか？

A: 筑波大学には、視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・自閉という5つの附属特別支援学校があります。その豊富な資源を活用し、大学と連携して特別支援教育の研究拠点となることを目的に設置された機関です。各附属から一名が派遣され協働して様々な取り組みを行っています。

☆詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp>